

最高速度時速500キロ以上を誇り、東京～大阪間わずか67分。従来型の磁気浮上方式鉄道と異なる世界初の超伝導リニアモーターカー。日本中を驚かせたJR東海による電撃発表から早くも6年。しかし、昨秋発表された確定ルートは何と2027年に名古屋まで来るだけ。大阪へは今世紀中ごろの2045年まで来ない！ことが分かった。で、慌てた関西経済界のお歴々は決起集会を開き、大阪同時開業を求めて活動を開始した。

が、実はJR東海は、旧国鉄時代に国から経営に横槍が入り難儀した経験があり、推定9兆円といわれる総工費を全額自己資金で建設する計画である。その結果、巨額の建設費が同社の経営そのものを圧迫するために、およそ5兆円で済むとされる東京～名古屋間をまず開通させ、資金回収の後に名古屋～大阪の2段階で進めるという方針を6年も前の段階で示していたのだ。しかし関西はこれまで何もしてこなかった。

現在も資金のめどは立たず、「金がないから国に頼む」などと言い出したためJR東海は「今頃になって何言ってんだ」と冷淡だ。口だけ出して努力をせず金も出さないイチャモンの様な関西財界の態度を見て、

**「私に向かって『主よ、主よ。』という者がみな天の御国に入るのではなく、
天におられる私の父の御心を行う者が入るのです。」マタイの福音書7章21節**

と、キリストが“いい加減な”クリスチャンに向かって戒めているのを思い出した。キリストを信じ洗礼を受けたら後は何もしなくて良いのではない。確かにゴスペルは、我々の罪の身代わりに十字架の刑罰を受けた後に復活したキリストを信じることによって、我々一人ひとりが救われ永遠の命を授かるというものだが、それは神と密接したコミットメントを伴う継続的な関係あつてのものだ。言い換えればそれは、キリストが無制限に下さる聖霊という資金によって、やがて再びやって来るキリストにつながるルートを各人が開通させていくということでもある。彼が再びやって来る段になって慌てないようにしたいものである。

2014-1-21

